

姉妹都市の「西海市」と、友好親善宣言を交わした「台湾宜蘭縣^{イラングン県}羅東鎮^{ラウツェン}」について、市民の皆さまにもっと知っていただくため、それぞれの「文化」「観光」「食」といった、さまざまな情報を紹介する記事を今月号より1年間連載します。

羅東鎮 編



第1回

羅東鎮って、どこ？

羅東鎮^{ラウツェン}は台湾北東部に位置し、太平洋に面している宜蘭縣^{イラングン県}の中心部にある商業都市です。

羅東鎮には宮崎空港から台湾桃園国際空港への直行便を使い、そこから車で高速道路を使つて行きます。移動時間が約4時間くらいで非常に近いところにあります。

「鎮」は日本の市町村で言う「町」にあたります。

羅東鎮の面積は本市妻地区の半分にも満たない11・34平方キロメートルと非常に狭いですが、約7万3千人が暮らしており、台湾一の人口密度です。

古くは農村都市でしたが、日本が統治していた大正11年、日本政府が林業資源の開発を決定し、出張所と木材置き場が宜蘭市から羅東鎮に移ったことで、産業形態が

「商業」に転換し、現在、宜蘭縣最大の商業都市になりました。

羅東鎮はとにかくにぎやかで、活気のある街です。

街の中心部にある公設市場周辺には、毎日朝早くから出店が立ち並び、多くの方が新鮮な野菜や海産物などを買い求めています。

また、夜には台湾最大級の「羅東夜市」が開かれます。毎日多くの市民や観光客が訪れ、まるで

お祭りが行われているかのように、一年中にぎわっています。

次号からそんな羅東鎮の「まつり」「観光」「食」といったテーマに絞って、詳しい情報・魅力についてお伝えしていきたいと思います。

なお、羅東鎮の紹介は偶数月、西海市の紹介は奇数月を予定しています。



台湾最大の「羅東夜市」